



1985・冬・第22号

# Αγορα アゴラ

鶴見大学図書館報



## 目 次

カルフォルニア・断章 .....	阿彦 周宜.....	1-3
貴重資料紹介 そのⅦ 古医書にみる医学史 3 .....	戸出 一郎.....	4-9
新刊アラカルト .....		10-11
図書館だより .....		12

## カルフォルニア・断章

文学部助教授 阿彦 周宜

本校に転任して三年目。思いがけず「アゴラ」に記事を依頼されたのは、確か夏休み前だったと思う。それが、はや師走。ふと五年前、カルフォルニア旅行の途中、当地の図書館や歴史資料室を眺めた思い出を語ることで今回はお許し願いたい。

<ハンチントン図書館を目前にして>

12月17日、晴。ロスアンゼルスのホテルにボール・イワタ夫妻の出迎えを受ける。彼は日系三世で、メソジスト派の牧師である。妻がオレゴン州ポートランド在住時代にお世話になった関係で、午後二時すぎよりつき合っ  
て貰えることになった。彼はホテルから車で50分程にあるサン・マリノのハンチントン図書館に、私達を案内してくれた。

この大図書館の創設者ヘンリー・ハンチントンは、南北戦争後破竹の勢いで西部へ伸びた大陸横断鉄道の会社重役であった。彼は一代にして築いた巨万の富を元にして、世界中

の古書、絵画、彫刻等を収集し、第一次大戦の戦勝景気に湧く1919年、この地に図書館とアート・ギャラリーを創設したのである。

妻はハルコ夫人と談笑しながら、ギャラリーを目指して歩いて行く。私はボール牧師に説明を聞きながら、トレーラー・ハウスのような売店に入って行った。そこには、コピー印刷されたアメリカの歴史資料が展示即売されていた。幾重にも重ねられたポスターや号外を選びながら、専門とするアメリカ文学の教材になりそうなものを一枚ずつ時間をかけて、ほとんど全部を両手一杯かかえた。すると、美人の職員が、「それなら、30枚セットでまとめてありますよ」とほほえんでいる。なんとカウンターの後方には、包装紙を巻きつけた資料集があるではないか。しめて、30ドル也。店を出ながらふり返ると、美人の職員はウインクをして、私がかき集めたものを一枚ずつ元に戻し始めていた。

(買い求めた資料は、今眺めても胸のときめきをおぼえる。独立戦争前の1762年、ボストン市広報は言う——「規律と秩序を！」。1843年7月10日、「オルバニー・バッファロー間鉄道開通」のポスター。1860年12月20日、チャールストン・マーキュリー紙号外——「連邦分裂」——南北戦争突入。1865年4月15日、「フォード劇場」のチラシ——リンカーン大統領が暗殺された晩の出しものだ。1866年、ヴァージニア会社の広告——「金の故郷、カルフォルニアへ行こう！」等々。その他、ベリーによる下田開港から真珠湾攻撃に至るまでの日米関係の資料もある。これらの資料はすべて研究室に保管し、今でも時々授業に役立てている。)

夕暮れがせまっていた。ポール牧師はしきりに時間を気にし、私を急がせる。30分も道草をくったのだ。大図書館の古代ギリシア建築のような姿が見えてきた。そこへ妻達が、戻ってくるなり、「今まで何してたのー」と言う。時計を見ると、4時30分！図書館閉館の時刻……巡回してきたガードマンが、私達に「入れない」と言い切った。長期滞在でもせぬ限り、通うこともできないハンチントン図書館を前に、私は地団太を踏んだ……。



その晩、私達はポール牧師宅で行われた教会員の一足早いクリスマス・パーティに招かれた。「ミスター・アヒコ、アメリカについてどう思いますか。スピーチをお願いします」と言

われ、30人のアメリカ人の前で下手な英語スピーチ。(後に悪夢の原因となった。)

<ウエルス・ファーゴ銀行史料室>

12月20日、快晴。グッスリ眠ったためか、疲労もとれ、サンフランシスコの陽光が眩しい。昨日のバスによる市内観光は、せわしかった。早朝の市庁舎と図書館を外から眺め、ノッブ・ヒルから霧に霞んだ市街を見おろし、フィッシャーマンズ・ウォーフの海老料理は高くつき、ゴールデン・ゲートの夕暮れを見た。イロハ坂とも言うべきロンバート通りの坂道には、12月というのにアジサイが咲いており、道行く人々の衣装はノースリーブ姿もあればオーバーコート姿もあり、まちまちだ。今日は心ゆくまで歩いてみたいと思った。

ガイド・ブックで目を引いた「歴史資料室」に行くことにして、バスに乗る。そこには西部開拓時代の展示物があるはずだ。バスを降りて歩き始めると、明るい色の巨大な高層ビルが目に入る。バンク・オブ・アメリカだ。「映画『タワーリング・インフェルノ』のモデルとなった建物よ」と、妻の説明が入る。結婚するまで長年銀行勤めをし、この町にも数回研修に來ている妻は、銀行と聞けば昔を思い出して喜々としている。そして、目指す「資料室」が他ならぬ「ウエルス・ファーゴ銀行史料室」とわかった時、妻の目は更に見開かれた。何という条件反射だ。「クソー、俺はアメリカに銀行見学で來たのではないぞ」と、思わずつぶやいてしまう。

ヘンリー・ウエルスとウィリアム・ファーゴが銀行兼運送会社の業務をサンフランシスコで始めたのが、1852年。当時、カルフォルニアはゴールド・ラッシュにあたり、金塊発見に夢を託した何十万もの人々が、世界中から集まって來たのだ。そして、この会社は金の運送や郵便物の配達等で名前を高めたのである。南北戦争後は「ボニー・エクスプレス」(駅馬車)によって、西部諸州の郵便物配



送と乗客の輸送を独占するまでになったというわけである。

ロビーを抜けて奥の一角に、資料室がある。ドアを開けると、二人の館員が「ハロー」とにこやかに声をかけてくれた。日本の図書館や博物館では見られない対応の仕方に、私は言いしれぬくつろぎを感じた。20畳程の館内には、私達二人と一組の親子連れがいるだけで、静かだ。部屋の中央には、黄色い四輪にスプリングを取り付け、赤く光る車体の両翼にガス灯を付けた駅馬車が陣どっている。馬を四頭仕立て、運転席から鞭をふるって「ハアー」と叫べば、今にも走り出しそうな気配である。

そして、一攫千金を夢見た荒くれ者達が使用した採掘道具の数々は、実に見ごたえがあった。鈍く光るツルハシの柄は黒ずみ、その中央と端にはひとときわ濃く両手の跡が浮かび上がっているのだ。振りおろす度に岩塊の衝撃を受けたであろう手の平と指が、汗とホコリでしみついたのだ。砂金を水ごとすくいあげて見つけようとした金皿……砕いた土を掘り上げたスコップは柄もなく、金具だけがサビて腐蝕している。金をはかった計量器、頑丈な金庫、銃砲の数々等、見飽きることがない。



と、館員によってさし出された一枚のポスター。それは、おたずね者の手配書であった。金塊発見に夢を託した人々もいれば、他人の夢を手っ取り早く失敬しようとしたアウトロ

ウ達もいた。事件発生の次の日に印刷されたポスターは、インクのシミがにじんでおり拍力満点だ。「賞金総額1850ドル。ウエルス・ファーゴ会社の駅馬車、8月3日(火)、フォーベスタウンの西3マイルのラ・ポータで5人の覆面強盗に襲撃される！逮捕もしくは情報提供者には、犯人一人当たり250ドルの賞金を提供し、更に強奪金の四分の一を提供する予定。1875年8月4日、総取締役、J・ヴァレンタイン。」

私達はこのポスターを大切にかかえ、館員の「スィーユー・アゲイン」の声に送られて部屋を出た。屋近い銀行のロビーには大きなクリスマスツリーが飾られ、街からやって来た男女二人ずつのグループが聖歌をうたい始めた。銀行員達は別に手を休めることもなく、黙々と仕事を続けている。彼らに拍手をしたのは、私達二人だけだった。

午後はケーブルカーに乗ってフィッシャーマンズ・ウォーフへ。波止場近くの路上では、ゆで上げられたカニが売られていた。甲の横幅だけで30センチもある大きなワタリガニが、一匹たったの2ドル70セントとは！私達は街角のギター弾きの演奏を聞きながら、ベンチにすわり、身のしまったカニを三匹たいらげ、帰りには晩御飯用に更に四匹買い求めた。

ダウンタウンに見つけたアメリカ民衆史と音楽と美味……リッチな気分とは、こういうものか。

<断章のおわりに……>

思えば、サンフランシスコ図書館は眺めただけ、ハンチントン図書館は門前払い。かろうじて、銀行の歴史資料室に入れただけだ。思い出を語るには物足りぬ。しかし、いつまでも印象に残るのは、訪ねた場所の職員の応対に他ならない。あわただしい日常生活にあって、駅、図書館、体育施設、病院に限らず、市民や学生のサービスにあたるべき窓口、にこやかな「声」が欲しいと、切に思う。

## 貴重資料紹介 そのⅦ

### 古医書に見る医学史 3

#### 中国の医書

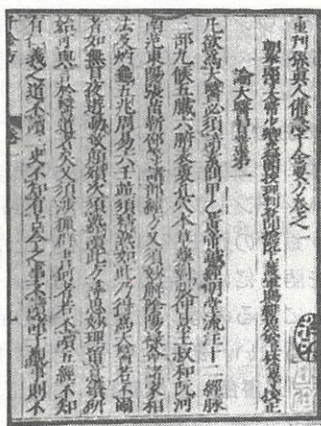
中国では、漢代に医学理論が深く究められ「素問」、「靈枢」、「傷寒雜病論」のような体系的医学書があいついで著わされたが、六朝時代以後は医論の発展は全く見られず、それに代って実用的な方書（処方集）がつぎつぎに著わされた。この傾向は医学全書にまで及び、あらゆる医学書は方書の性格を強めて行った。

唐代の大医・孫思邈<sup>そん し ぼく</sup>が著わした「備急千金要方」<sup>ひ きゅうせん きんようほう</sup>「千金方」は、中国の医書としてははじめて全体を疾患別に分類し、各科における疾病の症候・病因・処方を述べ、按摩・導引・養生・咒言・鍼灸に及び、医学全書としての形態を備えている。本書の様式と内容は後世の規範となり、我国の「医心方」もこれにならっている。

- 1、重刊孫真人備急千金要方 30巻 序1巻31冊

唐・孫思邈撰 宋林億〔等〕校正

天明5（1785）序 京 石田治兵衛刊



1 千金要方の巻首

#### 漢方その2 宗以降及び日本

歯学部非常勤講師 戸出 一郎

- 2、唐王燾<sup>げ だ い ひ ようほう</sup>先生外台秘要方 40巻 序目1巻24冊（2冊入れ本）

唐・王燾撰 宋・林億等校 山脇尚徳（東洋） 清水敬長再校 延享3

（1746）序 京 山脇氏養寿院據明程氏崇禎覆宋本 影刊

唐王朝の図書館長であった王燾が、当時存在した処方集を整理統合して集大成した大著である。本書は引用文献を明記してあるので書誌的価値が高い。



2 外台秘要方の扉

宋代には印刷術の進歩と、王朝の文治政策によって学問は大いに栄え、古医書の復刊、本草書や方書の出版があいついで行われた。

- 3、重刻太平惠民和劑局方<sup>たいへいけいじん わ ざいきくほう</sup> 10巻10冊

宋・陳師文等奉敕撰 明・朱葵閣

正保4（1647）京 村上平樂寺刊

大觀年間（1107～10）に宋政府の官立薬局で作られた処方集「和劑局方」を1151年に増補改訂したもので、調剤、主治を詳しく列記している。本書は後代に至るまで広く用いられ大きな影響を与えた。実用的であったため我国でも室町、江戸両時代にわたって大いに用いられた。

- 4、普濟本事方<sup>ふ さい ほん し ほう</sup> 10巻 続集 10巻5冊



宋・許叔微述 中正堂（汭流）訓点  
享保21（1736）大阪 向井八三郎刊  
紹興2年（1132）、許叔微の著、藥方、鍼灸  
・医案におよび、全体として医学全書のおも  
むきを備えた方書である。

1126年には北方の金が南侵し、宋王朝は南  
遷して、中国は金・南宋の両国に分断され  
た。更に1234年には蒙古族により金は亡ぼさ  
れ、1279年には南宋も征服されて国号は元と  
なった。

5、蘇沈内翰良方 10巻3冊（唐本）  
宋・蘇軾 沈括撰 乾隆41（1776）序  
鮑廷博刊（知不足齋叢書之1）

本書はもと沈括（1030—1094）の原本、沈氏  
良方に後人が蘇軾の方書を附入したもので、  
本草・灸法・漢方・養生を記す。

6、太医院校註婦人良方 24巻4冊  
宋・陳自明編 元禄6（1693）大阪  
伊丹屋太郎右衛門刊

南宋以前の産婦人科の成果を総括した内容  
豊富な大著で後世に大きな影響を与えた。

7、銭氏小兒直訣 4巻1冊  
宋・銭乙撰 閻孝忠集 明・薛鏗校註  
慶安元（1648）刊 後印

北宋の小児科の大家・銭乙（1035—1117）の  
説を弟子の閻孝忠がまとめたもの、両者の理  
論と経験が綜合された名著である。

金・元の時代は、戦乱による経済破壊のた  
め、人民の生活は塗炭の苦しみに陥り、飢餓  
と疾病が流行した。医学もこの現実に向合  
うものが必要とされ独特の発展をした。いわ  
ゆる金元医学の形成である。

8、重校補註素問玄機原病式 5巻  
補遺 1巻5冊  
金・劉完素撰 饒庭立伯重校補註  
慶安4（1651）京 村上平樂寺刊

南宋の劉完素（1120—1200年頃）は、当時  
流行した運氣学説を重んじ、六気の中の火熱  
を疾病の主因として、治療には寒涼剤を多  
く用いた。

9、儒門事親 15巻5冊  
金・張子和（從正）著 明・吳勉学校  
正徳元（1711）序 大阪 田縁叔平蔵版  
引從正（子和）（1156—1260年頃）は劉完素  
の説を更に発展させ、汗吐下による病邪の排  
出を主法とする医説を立てた。

10、鰲頭評註格致余論 2巻4冊  
元・朱彦修（震亨）撰 寛文5  
（1665）京 村上勘兵衛刊  
朱丹溪（1281—1358）は劉完素、張子和、李  
東垣（1180—1251）の説を折衷した。本書の論  
点は陽有余陰不足を人の常態とみて、治療に  
あたっては陰を補い火邪を降すことを主張す  
るものである。この説は当時の我国にも大き  
な影響を与えたが、李東垣の説とともに現代  
の日本人に適するものである。

明清の時代はだいたい金元医学の延長であ  
ったが、多くの名医が輩出し、多数の医学書  
が出版された。殊に巨大な叢書が次々に編纂  
されたことは特筆に値する。

11、編註医学入門 7巻 首1巻8冊  
明・李梴撰 慶安4（1651）刊  
入門とはいえ内容は高度で、金元医学理論  
をもってまとめられた医学全書である。

12、京板校正大字医学正伝 8巻8冊  
明・虞搏編 曲直瀬玄朔訓点 寛永11  
（1634）刊

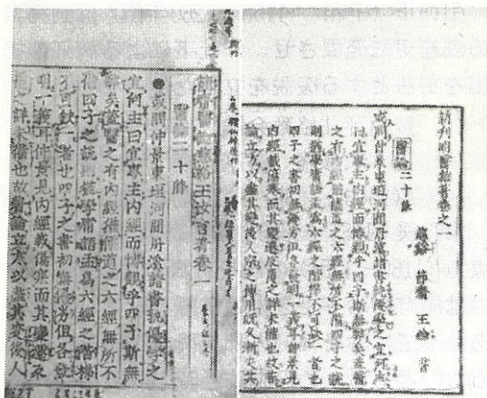
13、新編医学正伝（或門） 1巻3冊  
明・虞搏編 欠名頭注併訓点 天和2  
（1682）京 銭屋儀兵衛等刊

朱丹溪の医説を宗とした医学全書で、病  
証、脉法、治法が整然と記されている。曲直  
瀬道三（1507—1594）の啓迪集に引用され、我  
国後世派に与えた影響は大きい。

14、（鰲頭）医経源流集 1巻5冊  
元・王履著 貞享5（1688）京  
武村市兵衛刊

15、重刊明医雜著 1巻1冊（古活字版）  
明・王綸著 慶長元和中刊

- 15、新刊明医雑著 1巻1冊  
明・王綸著 欠名訓点 正保2  
(1645) 京 野田弥兵衛刊



15 重刊明医雑著及び15 新刊明医雑著巻首

- 16、(名)医方考 6巻 序目1巻7冊  
明・吳崑著 元和5 (1619) 京  
梅寿刊
- 17、(鰲頭)医方考繩愆 6巻 脉語繩愆  
2巻10冊  
明・吳崑著 北山友松子(道長)繩愆  
元禄10 (1697) 京 秋田屋平左衛門刊
- 18、新刊医林状元濟世全書 8巻8冊  
明・龔廷賢編 寛永13 (1636) 京  
村上平樂寺刊
- 19、儒医精要 1巻1冊  
明・趙繼宗著 慶安元 (1648) 京  
上村次郎右衛門刊
- 20、奇效医述 2巻2冊  
明・聶久吾著 万治4 (1661) 京  
田原仁左衛門刊
- 21、医宗必読 10巻10冊  
明・季中梓著 貞享4 (1687)刊 正徳  
3 (1713) 後印 京 [小川]多左衛  
門刊
- 22、錦囊秘録癆瘵諸血 2巻2冊  
明・馮兆張纂輯 享保15 (1730)  
大阪 泉屋卯兵衛刊
- 23、医門法律 6巻 序目1巻16冊

清・喻昌(嘉言)著 寛文5 (1665)  
京 村上勘兵衛刊

- 24、寓意艸 6巻6冊

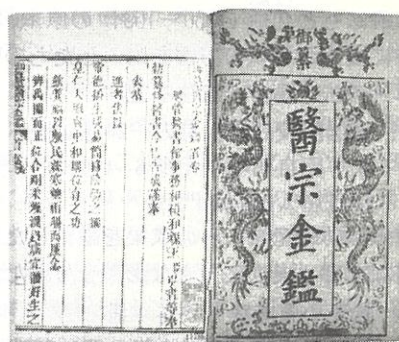
清・喻昌(嘉言)著 享保14 (1729)  
京 植村藤次郎等刊

- 25、医方集解 3巻6冊

清・汪昂著 田中素行訓点 享保11  
(1726) 序 大阪 吉野屋博文堂蔵版

- 26、御纂医宗金鑑 90巻 首1巻64冊  
(唐本)

清・吳謙〔等〕奉敕撰 清刊  
清政府が吳謙等に命じて編纂させた医学叢  
書である。教科書としてよく利用された。



26 御纂医宗金鑑見返と巻首

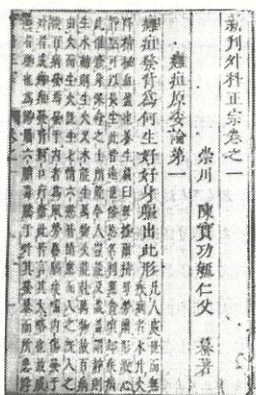
- 27、温疫論 2巻2冊  
明・吳有性著 劉方舟校 明和7  
(1770)刊 天明8 (1788) 再版 江戸  
前川六左衛門等刊
- 28、温疫論標註 2巻2冊  
明・吳有性著 黒弘休標註 享和3  
(1803) 江戸 前川六左衛門等刊
- 29、癘疫論類編 5巻2冊  
明・吳有性著 清・劉松峯訂正  
享和3 (1803) 京 堺屋仁兵衛刊
- 30、温疫論發揮 2巻2冊  
明・吳有性著 小畑良卓(居敬)校註  
天保8 (1837) 江戸 詩山堂刊

温疫は明代の流行病で、厲氣が口鼻から侵  
入し、徐々に輕熱をもって発病し、胃の附近  
に宿る疾患である。吳有性はこの病気を深く



研究し、温疫と名づけた。

- 31、立齋外科發揮 8巻1冊  
明・薛己著 寛文元 (1661) 京  
水田甚左衛門刊
- 32、新刊外科正宗 4巻8冊 (唐本)  
明・陳実功纂著 順治15 (1658) 序刊



32 新刊外科正宗の巻首

「外科正宗」は唐から明に至るまでの内服薬、外用薬を選録し、多くの外科手術を記載している。当時最良の外科入門書であった。

- 33、徽瘡秘録 2巻2冊  
明・陳司成著 享保10 (1725)刊 安永3 (1774)再版 京 菱屋三郎右衛門刊  
中国初の梅毒専門書、病理・診断・治法にわたりよくまとまっている。
- 34、痘科鍵 2巻4冊  
明・朱巽著 享保15 (1730)刊 安永6 (1777)再版 江戸 須原屋茂兵衛等刊
- 35、新刊秘伝痘疹金鏡録 3巻3冊  
明・翁仲仁輯著 享保17 (1732)  
京 植村藤治郎刊

両書は痘疹の臨床書として名高い名著である。

#### 日本の医書

日本の医学は奈良・平安の両時代を通じて中国医学の模倣に終始したが、鎌倉時代にな

ってようやく日本の医師の手に成る大著があらわされるに至った。梶原性全の「頓医抄」50巻と「万安方」62巻がそれである。

両書は中国の方書を原点としてはいるが、自らの経験によって批判を加え、また和文で書いてある点、新しい方向を打出したものである。

室町時代になると実地医術が勃興した。群雄割拠し、戦乱にあげくれた中世の社会がそれを必要としたもので、理論よりも技術を重んじ、多くの流派と専門医科が生まれた。

またこの頃、明に渡って医学を学んで来る人達が増え、更に新しい発展がもたらされた。

渡明した医師の一人、田代三喜 (1465—1537) は李朱の医学を学んで帰ったが、彼の弟子となった曲直瀬道三は中世最大の名医とたたわれた。その著「啓迪集」8巻は李朱を宗としながらも実証を重んじた独自の医説を伝えている。

金元の医学が盛行するにつれて、空虚な理論を弄する人達が増え、本来の臨床医学の姿は次第に失われて行った。それゆえ中国古代の精神にたち帰り、経験を重んじ、実証的精神によって医学を行おうと主張する人達が現われたのは当然のなりゆきであった。

復古を唱えた最初の人は名古屋玄医 (1628—1696) で、後藤良山 (1659—1733) がこれに続いた。いわゆる古方派の誕生である。

後藤良山は百病は一気の留滞によって生ずるという説を立て「内経」系の理論を否定した。「病因考」は彼の医説を伝えるものである。

- 36、(校正) 病因考 2巻1冊  
後藤良山口授 後藤敏校正 昭和17 (1942) 東京 壬生書院刊 文化12 (1815) 養浩園刊本ノ油印

良山の弟子香川修徳 (1683—1755) は更に徹底した実証主義者であった。

- 37、医事説約 1巻2冊

香川修徳撰 文化5 (1808) 序 江戸  
英平吉刊

修徳が坐右の定方を記した必携版である。

香川修徳の門から名高い2人の大医が出現した。山脇東洋(1705-1762)と吉益東洞である。この両名によって医学における実証精神は急速に高められた。

吉益東洞(1702-1773)は古方派の行き方に徹底した改革を加え、医界に大波瀾を起した。彼は独自の病因論、万病一毒説を主張した。すなわち万病は一つの毒が動くことによって生ずるもので、治療の目的はこの毒を去ることにあるというのである。また腹は万病の宿るところであるとし、腹診を重視したので我国独自の腹診法はこの時から発展した。

### 38、医断 1巻1冊

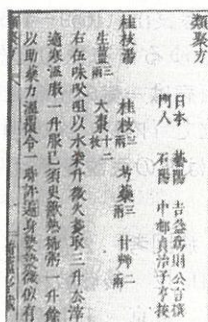
鶴田冲(元逸)著 宝暦9 (1759) 刊  
文化6 (1809) 後印 大阪 河内屋儀助等刊

東洞の医説を弟子の鶴田元逸が集録した書である。

東洞は更に傷寒論、金匱要略から方証相對の明らかな処方220条を選んで「類聚方」を著わした。

### 39、類聚方 1巻1冊

吉益東洞著 明和元 (1764) 刊 寛政11  
(1799) 再版 京 小川太左衛門等刊



### 39 類聚方の巻首

40、薬徴 3巻 続編 3巻6冊  
吉益東洞著 天明5 (1785) 刊 文化9

(1812) 後印 大阪 吉田善蔵等刊

本書は「類聚方」に載る処方の中から53種の薬物を選び出し、各々の性能を説いたものである。

東洞の万病一毒説は医界に大きな衝撃を与え、多くの批判を受けたが、彼が立てた独自の医説は後代まで大きな影響を与えた。

寛永18年、長崎出島にオランダ商館が設立され、蘭館医が常駐するようになってから次第にヨーロッパ医学がとり入れられるようになり、安永3年「解体新書」が出版されてからは急速に西洋医学の翻訳書が出されはじめ、我国医学者に与えた影響は大きく、いわゆる蘭学が急速に広まった。

その頃紀伊国に大医華岡青洲(1760-1835)がいた。彼は漢蘭折衷の外科医で、チョウセンアサガオを主剤とする経口麻酔薬(通仙剤)を開発し、これを用いて文化元年(1804)にはじめて全身麻酔下で乳癌の手術を行い、その後は全身各分野の大手術を数多く手がけ、わが国外科医術に著しい進歩をもたらせた。彼の医術は弟子によって筆述されている。本学所蔵のものは次のとおりである。

### 41、金瘡要術口授 1冊

〔華岡青洲述〕 江戸後期写

### 42、青囊秘録 1冊

〔華岡青洲述〕 江戸後期写



### 42 青囊秘録 46 瘍科瑣言

### 47 瘍科方笈の各表紙

### 43、金瘡口授 1冊



- 〔華岡青洲述〕 天保12 (1841)  
 千原英俊写 (華岡青洲療法集之内)
- 44、春林軒用膏三綱領 1冊  
 〔華岡青洲述〕 天保12 (1841)  
 千原英俊写 (華岡青洲療法集之内)
- 45、春林軒丸散方 1冊  
 〔華岡青洲述〕 江戸後期写
- 46、瘍科瑣言 1冊  
 〔華岡青洲述〕 江戸後期写
- 47、瘍科方箋 1冊  
 〔華岡青洲述〕 江戸後期写
- 青洲の高弟本間棗軒(1804-1872)は華岡流外科を更に改良発展させ次の各書を著わした。
- 48、瘍科秘録 10巻 続 5巻17冊  
 本間棗軒著 弘化4 (1847) 江戸  
 和泉屋金右衛門刊
- 49、内科秘録 14巻14冊  
 本間棗軒著 慶応3 (1867) 跋 東京  
 和泉屋金右衛門等刊

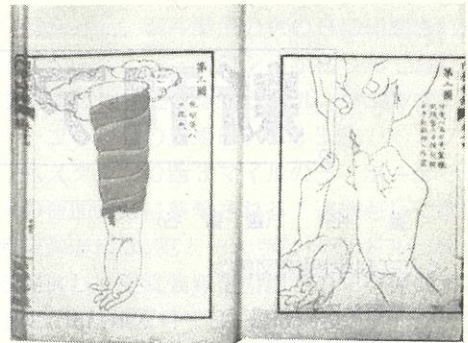


49 内科秘録 50 子玄子産論の表紙

また、このころ産科医賀川玄悦(1700-1777)は1人で産科の研究工夫を重ね、多くの手術を発明して我国産科学を飛躍的に発展させた。

- 50、子玄子産論 4巻 附録1巻2冊  
 賀川玄悦(子玄)著 明和2 (1765)  
 江戸 須原屋茂兵衛等刊

本書は玄悦が発明した産科手術法を述べ、始めて胎児の正常位を明らかにし、回生術を



50 内科秘録の図

創始している。

幕末になると蘭学が漢方医学を凌駕する勢いで発展したが、蘭学に対して旧来の漢方医学を固守しようとする人達がいた。幕府医学館の多紀氏を中心とする考証派の医家たちである。彼等は文献学ないし書誌学的研究による医学の考証を重んじた。考証派の中心となった人は多紀元簡(1755-1810)である。元簡は古医書の註解書を数多く出版した。本学所蔵のものは次のとおりである。

- 51、傷寒論輯義 文化5年(19号参照)
- 52、金匱玉函要略方論輯義 文化8年(19号参照)
- 53、素問識 天保8年(19号参照)
- 54、靈樞識 文久3年(19号参照)
- 55、救急選方 2巻2冊  
 多紀櫟窓(元簡)著 文化7 (1810)  
 江戸 英平吉刊
- 56、脈学輯要 3巻1冊  
 丹波(多紀)元簡著 寛政7 (1795)  
 序 江戸 英平吉刊
- 57、観聚方要補 10巻2冊  
 丹波(多紀)元簡輯 文政2 (1819)  
 京 勝村治右衛門等刊
- 58、医牘 3巻 附録1巻3冊  
 〔多紀〕櫟蔭(元簡)著 文化6  
 (1809) 跋 江戸 英大助等刊

元簡の子元胤は「医籍考」100巻を著し、元堅は「傷寒論述義」「金匱要略述義」「素問紹識」などを著した。

# 新刊ア・ラ・カルト

書 名 (叢 書 名)	著 者	出 版 社	出版年	請求記号
《人文科学関係図書》				
紙なし情報システム	F.W.ランカスター	共立出版	1984	007.1-L
小田原図書館五十年史	金原左門ほか	小田原市立図書館	1983	016.2137-K
イギリスの公共図書館	T.ケリー	東京大学出版会	1983	016.233-K
ペーパーバックス読書学	深野有	トパーズプレス	1981	019.1-F
新著百選 「週刊朝日」がすすめる本	丸谷オー・伊東光晴	朝日新聞社	1983	019.1-S
目でみる本の歴史	庄司浅水・吉村善太郎	出版ニュース社	1984	020.2-S
書物憂楽帖 オール・アバウト・ブックス	G.ドナルドソン	TBSブリタニカ	1983	020.4-D
愛書家の散歩 本読みのこころ	斎藤夜居	出版ニュース社	1982	020.4-S
安野光雅装幀集	安野光雅	岩崎書店	1984	022.57-A
ひとつの時代 小山書店私史	小山久二郎	六興出版	1982	023.1-O
雑誌をつくった編集者たち	塩澤実信	広松書店	1982	023.1-S
万物寿命事典 ブラックホールから流行まで	F.ケンディック他	講談社	1983	031.2-K
かながわの博物館 (かもめ文庫)	大戸吉古	神奈川合同出版	1984	K-O
ヨコハマ歴史散歩 (写真で綴る文化シリーズ)	生田恵哉	暁印書館	1983	K 1-O
中世鎌倉の発掘	大三輪龍彦	有隣堂	1983	K 3-C
鎌倉史話紀行	今野信雄	青蛙房	1982	K 3-K
藤沢 わがまちのあゆみ	児玉幸多	藤沢市文書館	1983	K 9-F
死の思索 (岩波新書)	松浪信三郎	岩波書店	1983	114.2-M
心の事典	本明寛ほか	ぎょうせい	1982	140-K
グレート・マザー 無意識の女性像の現象学	E.ノイマン	ナツメ社	1982	146.1-N
日本人の信仰心 (講談社現代新書)	磯部忠正	講談社	1983	161.3-I
福音書のイエス・キリスト 全5巻	荒井献監修	講談社	1984	193.608-F
ブルクハルトの世界 美術史家・文化史家・歴史哲学者 下村寅太郎	岩波書店	1983	201.1-S	
病いと人間の文化史 (新潮選書)	立川昭二	新潮社	1984	204-T
君は弥生人か縄文人か 梅原日本学講義	梅原猛・中上健次	朝日出版社	1984	210.04-U
民権百年 その思想と運動 (NHKブックス)	色川大吉	日本放送出版協会	1984	210.63-I
占領の傷跡 第二次世界大戦と横浜 (有隣新書)	服部一馬・斎藤秀夫	有隣堂	1983	210.76-H
江戸以前 埋もれた東京を掘る／蘇った中世の東京 永峯光一ほか	東京新聞出版局	1981-82	213.6-E	
シルクロードの歴史と文学	古田敬一	第一法規出版	1981	220-F
遠いうた 七十五年覚え書	徳川元子	講談社	1983	289.1-T
女性のための海外旅行案内 改訂版	辰野嘉代子	三修社	1983	290.8-C
風をあつめて 私の愛したバイクたち	小川ヨーコ	筑摩書房	1984	296.09-O
レオナルド・ダ・ヴィンチ伝 自然探究と創造の生涯 加茂儀一	小学館	1984	702.37-L	
マナーポスター100 世相10年	帝都高速度交通営団	1983	727-M	
砂漠の華 シルクロードの手芸	文化出版局	文化出版局	1981	753-S
巖本真理 生きる意味	山口玲子	新潮社	1984	762.1-I
ヨーロッパ音楽の歴史 西洋文化における芸術音楽の伝統 D.G.ヒューズ	朝日出版社	1984	762.3-H	
パリの世紀末 スペクタクルへの招待 (中公新書) 渡辺淳	中央公論社	1984	772.35-W	
洋学の系譜 江戸から明治へ 惣郷正明	研究社出版	1984	801.7-S	
私の文章修業 (朝日選書) 週刊朝日	朝日新聞社	1984	816-W	
英語名人 河村重治郎 (三省堂選書) 田島伸悟	三省堂	1983	830.1-K	



書 名 (叢 書 名)	著 者	出 版 社	出版年	請求記号
推理小説を科学する ポーから松本清張まで	畔上道雄	講談社	1983	901.3-A
思想の冒険家たち	森本哲郎	文藝春秋	1982	904-M
児童文学 はじめの一步	三宅興子ほか	世界思想社	1983	909-M
万葉の魅力 (古典選書)	鮫島正英	教育出版センター	1984	911.12-S
古典の中の植物 よみもの植物記	金井典美	北隆館	1983	913.3604-K
中村真一郎とその時代	小川和佑	林道舎	1983	913.6-N40-N
ここ過ぎて 白秋と三人の妻	瀬戸内晴美	新潮社	1984	913.6-S71
夢いまだ成らず 評伝山中峯太郎	尾崎秀樹	中央公論社	1983	913.6-Y30-O
たまゆらの宴 王朝サロンの女王 藤原定子	斎藤雅子	文藝春秋	1984	913.6-S
日本キリスト教児童文学全集 全15巻【刊行中】		教文館	1983	913.88-N
カナダ遊妓楼に降る雪は	工藤美代子	晶文社	1983	916-K
バーナード・リーチの日時計 青春の世界武者修行 C.W.ニコル		角川書店	1982	930.7-N
シェークスピア名句辞典	村石利夫	日本文芸社	1983	932.7-M
E.M.フォースター研究 平衡感覚の文学	阿部義雄	成美堂	1983	939.5-A
ジョージ・オーウェル 1984年への道	P.ルイス	平凡社	1983	939.0-O8-L
ヘミングウェイの巡礼	南英耕	早稲田大学出版部	1983	934.33-M

#### 《社会科学関係図書》

精神科医の見たロシア人 (朝日選書)	服部祥子	朝日新聞社	1984	302.38-H
情報公開 制度化をめざして	神奈川県情報公開準備室	ぎょうせい	1981	316.1-J
差別 その根源を問う (朝日選書)	野間宏・安岡章太郎	朝日新聞社	1984	316.36-S
フランスの異邦人 移民・難民・少数者の苦悩 (中公新書)	林瑞枝	中央公論社	1984	316.835-H
地方の誇り 文化逆流の時代 (中公新書)	辻村明	中央公論社	1984	361.48-T
新・日本住宅物語 (朝日選書)	早川和男	朝日新聞社	1984	365.3-H
高齢化社会と労働	北川隆吉	中央法規出版	1983	366.28-K
女性像 過去と現在	上智短期大学	上智短期大学	1983	367.2-J
女のイメージ (講座女性学)	女性学研究会	勁草書房	1984	367.208-K
女の戦後史 1 昭和20年代	朝日ジャーナル	朝日新聞社	1984	367.21-O
けんかの仕方教えます	佐江衆一	岩波書店	1984	371.45-S
教育における子どもの復権	武田忠	柏樹社	1984	375-T
ムラ・生活・祭り	安藤慶一郎	第一法規出版	1983	382.1-A

#### 《自然科学関係図書》

朝永振一郎博士 人とことば	加藤八千代	共立出版	1984	402.1-T
科学の本の本 サイエンスブック・ガイド	講談社ブルーバックス編集部		1984	④ 403.1-K
物語数学史 (新潮選書)	小堀憲	新潮社	1984	410.2-K
上野動物園百年史	恩賜上野動物園	第一法規出版	1982	480.76-U
オーデュボンサイエティブック 昆虫		旺文社	1983	486-L
荻野吟子 日本の女医第一号	奈良原春作	国書刊行会	1984	490.21-O
脳から見た男と女 性差の謎をさぐる	新井康允	講談社	1983	491.371-A
ヒューマン・ブレイン	D.ギリングほか	プレジデント社	1984	491.371-G
遺伝を考えた人間の話 人類遺伝学入門	木田盈四郎	講談社	1984	491.69-K
思春期挫折症候群 現代の国民病	稲村博	新曜社	1983	493.7-I
むしばのたわごと 上	長谷川正康	書林	1983	D04-H
子供の虫歯が怖い!	梶井美香	主婦と生活社	1984	D56-K
身近な科学ゼミナール 楽しく学べて役に立つ	橋本尚	講談社	1983	504-H
水道の文化 西欧と日本 (新潮選書)	鯖田豊之	新潮社	1983	518.1-S
地球レポート 緑と人間の危機 (朝日選書)	E.P.エックホルム	朝日新聞社	1984	519-E
アメリカン・パッチワークキルト事典	小林恵	文化出版局	1983	594-K

# 図書館だより

## ◎閉館日のお知らせ

1月31日(木)	歯学部入試準備
2月1日(金)	入学試験
2月2日(土)	入学試験
2月4日(月)	短大部入試準備
2月5日(火)	入学試験
2月8日(金)	※文学部入試準備
2月9日(土)	※入学試験
2月28日(木)	月末閉館日
3月1日(金)	※蔵書点検
3月5日(火)	
3月6日(水)	※文学部入試準備
3月7日(木)	※入学試験
3月15日(金)	卒業式
3月30日(土)	月末閉館日
4月1日(月)	※館内整理
4月4日(木)	
4月5日(金)	入学式
4月6日(土)	※オリエンテーション
4月10日(水)	

※の期間、別館は開館します。

## ◎開館時間変更のお知らせ

2月6日(水)から4月10日(水)まで  
開館時間を次のように短縮します。

平日 9:00~16:30

土曜日 9:00~13:00

## ◎図書館建築のあゆみ

現在新図書館建築が着々と進んでいます。  
この計画がどのような経過により着工までに  
いったったか、カレンダー形式でお知らせした  
と思います。

### 【1983】

- 4月1日……図書館建築プロジェクト結成  
(以後11回開催)
- 4月8日……木曜会(図書館学・博物館学課  
程教員との図書館建設懇談会)発  
足(以後4回開催後、図書館専門  
部会に引き継ぐ)
- 6月22日……総合企画委員会で準備委員会設  
立の承認
- 6月29日……理事会・評議員会で図書館建築  
決定
- 10月13日……図書館専門部会発足(以後14回  
開催)
- 12月20日……設計監理委託契約を「(株)・日建  
設計」と結ぶ

### 【1984】

- 2月15日……図書館等建築委員会発足(以後  
3回開催) 図書館等建築推進委員  
会発足(以後6回開催)
- 7月6日……基本設計案最終承認
- 8月22日……横浜市へ建築確認申請
- 10月9日……地鎮式
- 10月31日……熊谷組と工事契約
- 11月7日……横浜市より確認通知書受理
- 11月13日……建築位置確認

◎1986年(昭和61年)2月……完成予定

アゴラ——鶴見大学図書館報——

第22号 1985年1月10日発行

鶴見大学図書館発行(館長 手崎政男) 〒230横浜市鶴見区鶴見2-1-3 045-581-1001